

窓

福島県教育センター

「窓」に寄せる思い
「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。



「働き方改革への思い」

次長兼総務管理部長 嵐影 政弘

当センターは、昭和46年4月現在地に開所され、現在46年目を迎えております。

平成28年度の研修者は、約2300名となっており、当センターで研修を実施することが出来なかった東日本大震災発災時を除き、これまで多くの教職員が研修を受講されています。

皆さんも御承知のとおり、我が国の教育の基本は、全国どの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられることであり、文部科学省により学校教育法等に基づく「学習指導要領」という各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準が定められています。

学習指導要領が現在のような大臣告示形式で定められるようになったのは、昭和33年のことで、それ以来、ほぼ10年毎に改訂されており、現在まで8回（一部改正を含む）改訂されています。

各改訂の際のキーワードは、昭和30年～40年代では系統的学習の重視と教育内容の現代化、昭和50年～平成10年代はゆとり路線として、ゆとりのある充実した学校生活の実現、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成、基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える「生きる力」の育成、平成20年代はゆとりから学力重視として、生きる力を育成しつつも、基礎的・基本的知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成となっています。また、昨年公示された学習指導要領では、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成をしつつ、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力の育成となっています。

これらの改訂は、経済界からの要請、時代や社会の変化への対応、子どもや教師さらに家庭・地域の実態の変化に伴い改訂されてきましたが、時には大きな振幅を伴うこともありました。

過去の中央教育審議会の答申の中に、教育においては、どんなに社会が変化しようとも「時代を超えて変わらない価値のあるもの」（不易）があり、ま

た、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」（流行）に柔軟に対応していくことが課題であると述べられており、今後も流行へ対応すべく同様のサイクルで改訂がなされると考えられます。

これまでも改訂のたびに当センター指導主事等は、学校現場での指導を支援するため、中央教育審議会の中間まとめ段階から改訂されるであろう内容に対応した調査・研究、研修内容の改編、充実を図ってきており、学校現場での指導方法の検討、定着に試行錯誤しながら取り組み、膨大な労力を要してきたのではなかったのかと、また、これからも要するのではないかと思います。

また、教員には、教職に対する責任感・探求力、教育の専門家としての高度な知識・技能及び豊かな人間性や社会性等の総合的な人間力とされる不易な資質能力に加え、高度専門職業人として学び続ける教員像の確立が求められ、そのためには校内研修ばかりでなく様々な経験を通じて自らを研鑽できる機会をもつことが必要であると言われ続けており、学校現場の教職員同様に当センター指導主事等も心身ともに過度の負担があるのではないかと思います。

現在、文部科学省では、学校現場における教員の長時間勤務の改善を図るべく「教員の働き方改革」の検討がなされており、また、本県においても教職員の多忙化解消への検討が進められています。近い将来学校現場においては、自らの意欲と能力を最大限に発揮できる勤務環境の整備がなされるのではないかと思います。

今回検討の範疇から外れている当センターにおいても、働き方改革等に倣い、魅力ある勤務環境づくりを進めることが指導主事等の資質能力、意欲等を高めることに繋がるものであり、ひいては受講される教職員に新しい時代の教育に対応できる知識・技能等を身に付けていただくためにも良い影響がでるのではないかと思います。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588
URL <http://www.center.fks.ed.jp> E-mail center@fcs.ed.jp

■教育ICTの活用について

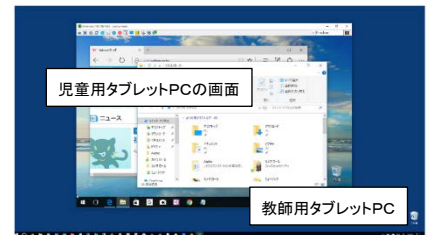
情報教育チームでは、昨年度と今年度に、タブレット PC を中心とした ICT 機器の効果的な利用について調査研究を行いました。今年度は、研究協力校（小学校 1 校・高等学校 1 校）において、「1 環境整備と運用管理の工夫」「2 教師による教科指導での活用」「3 児童生徒による授業での活用」の三つの視点で、様々な効果をねらった授業実践を積み重ねることによって、授業に ICT を活用して指導する力や、学校全体での活用する意識の向上が見られました。実践内容を中心に研究の一部をご紹介します。

【1】環境整備と運用管理の工夫

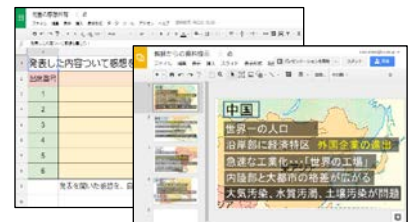
学校の ICT 環境を向上させるために、授業支援ソフトの機能の整備や G Suite の準備、無線 LAN を管理するための工夫を、無料で利用できるソフトを利用して行いました。

○授業支援ソフトの機能(画面表示機能)の整備

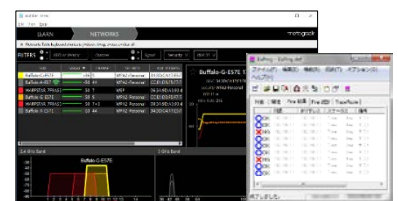
リモートソフトを利用すると、児童生徒用タブレット PC の画面を教師側で確認できます。そのまま、教師用タブレット PC を投影することで、クラス全体への提示が可能です。また、フォルダにファイルの共有設定を行えば、教材ファイル等を一括して配付することが可能です。



リモートソフト「Ultra VNC」



G Suite のスプレッドシートとスライド



ネットワークツール「inSSIDer」「ExPing」

○G Suite の導入

G Suite は Google 社のクラウドを利用したツールを集めたもので、プレゼンテーションアプリや、表計算アプリ等が利用でき、データの共有や共同作業に適しています。申請すれば、教育機関は無償で利用可能です。

○無線LANの管理

電波の強さを表示するソフトと、タブレット PC が無線に接続されているか確認できるソフトにより、ネットワークの運用状況を視覚化して効率的に管理することが可能です。

【2】教師による教科指導での活用

タブレット PC の台数が限られている場合、教師の効果的な活用が重要となります。教科指導における教師の指導の手立てとして、タブレット PC の特性を生かし、活用した実践を紹介します。

□ 小学校での実践

(1) 第1学年 生活科「いきものとなかよし」

校庭でコオロギやバッタ等の虫を探し、それらの虫がどんなところにいたか、タブレット PC のカメラアプリで撮影させました。そのデータを集約し、校庭虫マップを作成させ、その後の授業での話合いに活用しました。



(2) 第4学年 国語科「身の回りの文章を読みくらべよう」

身の回りにある実用的な文章について特徴を調べ、作成した発表資料をタブレット PC で撮影し、拡大提示しながら発表させることで、聞き手を意識して伝える大切さに気付かせました。



(3) 第6学年 理科「生き物のくらしと環境」

生き物の「食べる」「食べられる」という関係を、グループごとにデジタル教科書に書き込ませ、図式化して考えさせました。その結果を、クラス全体で共有し、理解の深まりが見られました。



(4) ふれあい学級 生活科

「シンクロナイズドスイミング遊びをしよう」

泳ぎや動きを、タブレット PC で撮影し、その場で確認させながら、どういう動きをすればそろった動きに見えるのか理解させ、修正させながら動画作品を作り上げました。



□ 高等学校での実践

(1) 第2学年 数学Ⅱ「三角関数のグラフ」

三角関数のグラフの特徴や周期関数を、デジタル教科書やグラフを動画で提示することで、三角関数の変化について理解が早まり、授業時間が短縮されました。



(2) 第1学年 化学基礎「分子からできる物質 水の性質」

水分子内にはたらく「水素結合」と「特別な性質」について、ジグソー法を用いて授業を展開し、結果を投影して、全員で確認しました。動画や模式図により、肉眼では確認できない現象を、わかりやすく理解させました。



(3) 第3学年 英語表現Ⅰ「Lesson 19(比較級)」

プレゼンテーションソフトで作成したスライドをプロジェクタで投影し、説明時間の短縮することで、生徒の活動時間を確保しました。基礎・基本の定着と、学んだ知識を活用してじっくり考えさせることができました。



(4) 第2学年 美術Ⅱ「日本美術入門」

日本美術の鑑賞において、拡大提示装置を用い、数多く提示することで、作品の共通点や特徴をとらえさせました。さらに、アニメーションや図版、動画を用いて様々な面から鑑賞させました。



【3】児童生徒による授業での活用

機器がある程度整備されると、児童生徒が活用する授業が展開できます。グループ1台または一人1台の環境において、児童生徒がICT機器の特性を生かした学習を展開するための、効果的な活用を検証しました。

(1) 小学校 第5学年 外国語活動「Lesson 5 What do you like?」

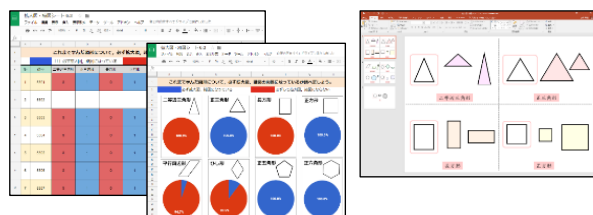
好きな色や形を尋ねたり、説明したりする英語表現に慣れ親しむため、Tシャツショップの客と店員に分かれてタブレットPCを用いて注文するという、コミュニケーション活動を行いました。G Suiteのスライドアプリで、Tシャツの型と星やひし形のパーツを準備し、注文に合ったTシャツの色や配置を英語でやり取りしながらデザインしました。



利用したスライドアプリと児童がデザインしたTシャツ

(2) 小学校 第6学年 算数科「拡大図と縮図」

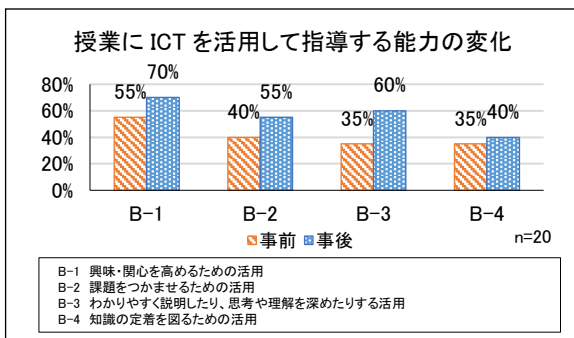
既習の平面図形が拡大図や縮図の関係になっているか、タブレットPCを用いてクラス全体の考えを集約し、全体で考察することで理解を深めました。G Suiteのスプレッドシートアプリに各自が考えを入力してグラフに表しました。説明する場面では、視覚的に理解するために、パワーポイントを利用した図形シミュレーションツールを活用しました。



利用したスプレッドシートアプリとパワーポイントのスライド

■ICT 活用指導力と活用の意識の向上

小学校の教員に行った「授業にICTを活用して指導する能力」についてのアンケート(右図)では、実践前に比べて実践後に「わりにできる」「ややできる」と回答した割合は、全ての項目で伸びました。研修を行って、実践を重ねることで、自信をもって指導できるようになることが検証できました。また、小学校、高等学校ともに、学校全体でICTを活用した授業づくりの意識の高まりが見られました。

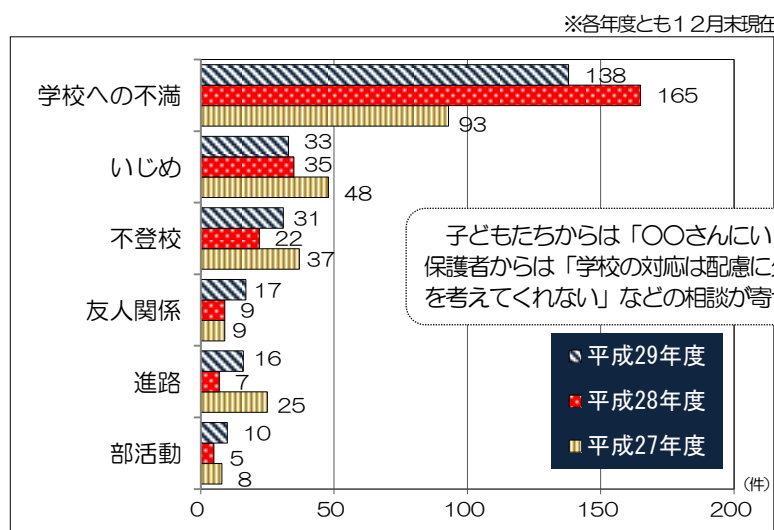


□■教育相談チームからの発信■□

電話相談からみえるもの ～児童生徒を支援する技能向上の必要性～

教育相談チームでは、先生方が子どもたちを適切に支援できるようになることを目指した「研修」「研究」「出前講座」を行っています。今回は「電話相談」の状況を切り口に、教育相談チームの「研修」「研究」「出前講座」についてご紹介します。

◎平成27～29年度の電話相談件数比較（多い主訴から六つを掲載した）



ここ3年間を比較しても、電話相談の内容は「学校への不満」「いじめ」「不登校」の三つが多く、例年、全件数の5割強なんです。

子どもたちからは「〇〇さんにいじめられている」などの相談が、保護者からは「学校の対応は配慮に欠けている」「先生がわが子のことを考えてくれない」などの相談が寄せられています。

これらの状況は、児童生徒が不安や悩みを抱えていること、自身の欲求がかなえられないことの表れであると考えられます。

教育相談チームでは、先生方が児童生徒理解を深めるとともに、深い理解を活用することで、児童生徒を適切に支援することができるようになることを目指した研修、研究、出前講座を行っています。

□専門研修の一例～「児童生徒理解に生かす学校教育相談基礎講座」から～

□ 相談面接演習

- ◆ 相談面接の目的
相談者の自己指導能力を高める。
- ◆ 相談面接の流れ
 - 信頼関係をつくる。
 - 問題の核心にせまる。
 - 問題の解決をはかる。
- ◆ 相談面接の進め方
 - 話しやすい雰囲気づくりをする。
 - 相談者の心理的状況を的確に把握する。
 - 指導援助の基本的な方針を立てる。 など
- ◆ 相談面接の基本的技法
 - 受容 ○ 繰り返す ○ 支持 ○ 質問 ○ 明確化
- ◆ 演習
ロールプレイ：児童生徒との相談面接

□ ロールプレイのようす※友人関係についての相談場面

今、友だちとけんかしてて…。…口をきいてくれないんです。

うんうん…。だれも口をきいてくれないのか…。それはつらいよね…。

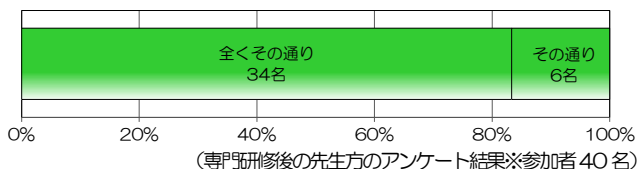
相手を理解するために、まずは、相手の話をよく聴くことが大切ですよね。

ロールプレイで子ども役を演じました。先生に話を聴いてもらって気持ちが楽になりました。

子どもの立場で受容・共感して、大人の立場で支援・指導していきましょう。そして、児童生徒の自己指導能力を高めていきましょう。

信頼関係を築くためには、児童生徒や保護者の思いを受け止め、児童生徒や保護者の気持ちに寄り添った対応をしていくことが大切です。

○ 講義や協議の内容が、自分の生徒指導・教育相談の指導力を高めたと感じますか？



□チーム研究の紹介～「コアチーム会議」の活用から～

◎「児童生徒の理解をさらに深め、その理解を生かしていく」

児童生徒一人一人を多角的・多面的に見て、理解を深めること、支援していくことに焦点を当てた研究をしています。

ポイント

◇ 児童生徒理解の在り方

- 見る（知る）
学校生活における様々な機会を通して児童生徒に向き合う際に、児童生徒の姿や行動をありのままに見取る。
- 読み解く（深める）
児童生徒の姿や行動の背景を様々な視点から探り、理解を深めていく。
- 生かす（支援する）
深めた理解をもとに、児童生徒が、生きる力を伸ばしたり自立したりすることができるよう、支援・指導する。

この理解に加えて

「主観」「客観」「共感」の各視点から児童生徒を理解することが大切

「私たちのための研修内容」になりました。

コアチーム会議で考えて実践した研修内容

- 「教育相談的手法を取り入れた授業」
- 「Q-U を活用した事例研究」
- 「感情のコントロールが苦手な児童生徒の理解と対応」



まず、先生方は「日常指導ふりかえりシート」を使い、自身の日常指導の内容や、今後必要な指導・援助の在り方を確認します。

日常指導ふりかえりシート		学年/学級	指導主事
学校 名前【 】			
No	質問項目		
1	教師や友達の話をよく聞くことができるように、話を聞く際の姿勢や目線、心構えなどを指導している。	4-3-2-1	
2	児童生徒の集中力や意欲を高めるために、話を聞きたくなくなるような工夫（教師の機軸やジェスチャー、児童生徒とのやりとりなど）をしている。	4-3-2-1	
3	いじめられたり、排除されたりする児童生徒が出ないように、いじめを許さないことを児童生徒に明確に話している。	4-3-2-1	
4	暴力や悪口、からかいなどを発見した時には、それを見逃さず、迅速に毅然とした対応をしている。	4-3-2-1	
5	暴力や悪口、からかいをしてしまった児童生徒に対して、その理由を聞き取り、話し合いの上で、自らの行為や気持ちについて整理している。	4-3-2-1	
6	児童生徒が落ちこみ学校生活を送ることができるように、学級掲示や机、教師用机などを整理とすることを心がけている。	4-3-2-1	
7	集会や学校行事などに対しては、その意義や参加態度などについて事前に指導し、目的意識をもって参加できるようにしている。	4-3-2-1	
8	給食や清掃の時間は、カールやマーチ、役割を明確にし、児童生徒が公平感を持ちながら活動できるようにしている。	4-3-2-1	
9	保護者との信頼関係を深めるために、保護者からの連絡には、誠実かつ迅速に対応できるようにしている。	4-3-2-1	
10	児童生徒が授業で自信が持てるように、机間指導の際に素直の良さを認め、励ましてから発表させるようにしている。	4-3-2-1	
11	児童生徒が授業で活躍できるように、学級へ取り組む際のポイントを示したり、勉強の仕方を教えたりしている。	4-3-2-1	
12	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
13	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
14	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
15	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
16	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
17	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
18	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
19	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	
20	児童生徒の発達段階や個性を考慮し、必要に応じて学習内容を調整している。	4-3-2-1	

コアチーム会議

目の前の子どもや学級への理解が深まると、学んでみたい研修内容が広がります。



お互いの思いや課題を検討・協議しながら、校内研修の内容や実施時期を決めていきます。

様々な立場の先生方と話し合うことにより、新たな視点でその子どもや学校を見ることができるようになりますよね。

コアチームのみんなで、学びたい研修などについて考えていると、自然と話し合いが盛り上がり、教員集団の共働性や同僚性も高まりましたね。

□出前講座の一例～「発達段階と児童生徒理解」から～

学校からの要請に応じて指導主事がうかがい、校内研修を支援します。

どの講座も児童生徒理解・支援など、先生方のスキルアップにつながる内容です。

出前講座は児童生徒や学校の実態、ニーズに合わせることができます。特に、体験を通して理解を深める研修スタイルが好評です。

振り返り

目の前の子どもたちを一人一人丁寧に見ていくこと、これまでの指導に発達段階、発達障がいの視点を加えることが大切なのですね。

児童生徒理解のための第一歩は、安心できる集団づくり。安心できる環境や関係性があると、子どもたちはありのままの自分を出することができることを再確認できました。

説明 児童生徒理解の方法と対象

- 発達段階と諸問題
- 発達障がいの特性
- 発達段階や発達障がいの特性を踏まえた相談面接
- 相談面接の基礎・基本とその留意点

演習

研修者は、「相手のことを考えて、相手と適切に関わることでできる技能を高めるためのスキルトレーニング」を体験します。また、事例を基に「通常学級にいる気になる子について個別、集団支援の点から日常的にできること」を話し合います。

◆演習内容

- 「どうぞ」「ありがとう」
- 「上手な話の聴き方」
- 「事例：相手の気持ちが分からない子」



社会の変化に伴い、児童生徒、保護者、教員が直面する問題は、ますます複雑化・多様化しています。教育相談チームでは、児童生徒理解をベースに、先生方の生徒指導・教育相談に関する児童生徒を支援する技能の向上に寄与したいと考えています。どうぞ、教育相談チームの研修、研究、出前講座をご活用ください。

長期研究員の研究紹介

当教育センターには15名の長期研究員がおり、学校教育の今日的課題について理論的、実践的な教育研究を行っています。高等学校の5名は1年間、小・中学校の10名は2年間の研究に励んでいます。先進的な取組の成果を県内の先生方の実践に活用していただけるよう、研究のポイントを紹介します。

国語科

研究主題 (H29・H30)

「生きて働く読みの力」の育成を目指す文学的文章の指導—ジグソー法を用いた協働的な学習を通して—

菅野 智香子（二本松市立杉田小学校）

学んだ「読み方」を他作品の読みに生かす汎用的な力の育成を目指しました。交流によって複数の「読み方」を獲得し、関連図書で活用することで、自分で読める実感をもたせる単元構成の工夫を紹介します。



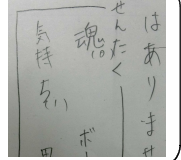
国語科

研究主題 (H29・H30)

豊かな言語感覚を育む「書くこと」領域における学習指導—描写を工夫して書く活動を通して—

渡邊 潤平（只見町立只見中学校）

「書くこと」領域において、「優れた描写を吟味する」「工夫して描写する」「表現した描写を検討し合う」活動を通し、言語感覚と言語能力を育成し、表現力の向上を目指しました。



国語科

研究主題 (H29)

根拠に基づいて自己の意見を形成する力の育成—文学教材の的確な読み取りと対話的な活動を通して—

及川 俊哉（福島県立梁川高等学校）

「読むこと」領域において、根拠を明確にして記述するため、「バタフライ・マップ」などのワークシートの工夫や、対話的な活動などを通して、意見を形成する力を育成することを目指しました。



社会科

研究主題 (H29・H30)

社会科における子どもの社会参加のための資質・能力を育む授業づくり—「歴史を追究するコミュニティ」の活用を通して—

渡邊 匡彦（会津若松市立永和小学校）

「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、歴史について追究している人々と関わりながら問題解決することを通して、社会参加に必要な資質・能力を育む授業の在り方について考察しました。



算数科

研究主題 (H28・H29)

算数科における「活用力」を育てる学習指導の工夫—身に付けさせたい数学的な考え方を明確にした「対話的な学び」を通して—

渡邊 佳央里（矢祭町立矢祭小学校）

三つの視点（教材との対話・他者との対話・自分との対話）での「対話的な学び」を工夫することで、数学的な考え方のよさを感じとらせ、「活用力」の育成を目指し、授業実践を行いました。



数学科

研究主題 (H29・H30)

問題解決の過程において、思考力を育む学習指導の在り方—課題解決に向けた見通しをもつ活動の工夫を通して—

森 康隆（須賀川市立長沼中学校）

既習事項と本時の課題をつなぐ支援ツールの開発や見通しを他者と共有する活動の設定など、生徒が見通しをもって自力解決するための支援を通して、数学的な思考力を育むことを目指しました。



数学科

研究主題 (H29)

学習意欲を高める高等学校数学科の授業—学習過程の振り返りと対話を意識した授業を通して—

羽田 真幸（福島県立葵高等学校）

学習過程における「振り返り」や「見通し」のめたせ方を工夫し、対話的な活動を効果的に設定した授業を行うことで、数学への興味・関心を高め、学習意欲の向上を目指しました。



※ 所属校は、平成30年3月現在のものです。

理 科

研究主題 (H29・H30)

主体的な問題解決による「深い学び」ができる児童の育成—単元構成と考察の展開の工夫を通して—

藤井 宏 (西郷村立小田倉小学校)

児童が主体的な問題解決に取り組めるように単元構成し、導入と考察の工夫を行いました。「考察」の場面においてこれまでの過程を振り返ることにより「深い学び」を目指しました。



理 科

研究主題 (H29・H30)

学習内容の深い理解を促す中学校理科の授業—自らの考えを広げ深める力と論理的思考力を高める学習活動の工夫—

志賀 匡行 (いわき市立小名浜第一中学校)

話し合い活動やノートづくりを工夫し、生徒が学習課題と知識・経験を関連付けて問題解決の見通しをもったり、思考過程を可視化し、整理したりできることを目指し、授業実践を行いました。



理 科

研究主題 (H29)

物理授業を通して主体的な学びを育む指導法の工夫—発散・収束・メタ認知の3過程を重視した「質問づくり」指導を通して—

小野寺 充 (福島県立安積黎明高等学校)

教師の発問の代わりに生徒自身が質問を考える「質問づくり」に取り組みました。事象との出会いに対し、既存の知識を整理し、表現する力を育てることで、主体的な学びの育成を目指しました。



英語科

研究主題 (H28・H29)

場面や状況に応じて話す力を育成する指導の在り方—即興で話す活動の充実を目指した「逆向き設計」に基づく指導過程の工夫を通して—

松本 聡二 (矢吹町立矢吹中学校)

「逆向き設計」に基づいた指導計画を通して、パフォーマンス課題やルーブリック評価を取り入れ、即興で話す活動の充実化を図りながら、場面や状況に応じた話す力の育成を目指しました。



英語科

研究主題 (H29)

「話すこと」における言語運用能力の流暢さと正確さを向上させる指導—Time Decreasing Writingとケーススタディを通して—

クームズ 茂子 (福島県立福島東高等学校)

スピーキングの流暢さと正確さをバランスよく育成するために、制限時間を設定したライティング活動と英語話者によるモデルを利用した振り返りの活動を取り入れ、授業実践を行いました。



教育相談

研究主題 (H29・H30)

児童一人一人に社会性を育み、「よりよい集団」をつくる指導の在り方—「認め合い」に焦点を当てた教育相談的な手法を生かして—

徳永 一夢 (いわき市立泉北小学校)

「認め合い」に焦点を当てた授業や日常指導の積み重ねにより、児童一人一人に社会性を育み、関わり合い、認め合い、助け合い、高め合う「よりよい集団」をつくることを目指しました。



教育相談

研究主題 (H29)

よりよい人間関係を形成する力を高める研究—「伝える力」の向上を通して—

菊池 良平 (福島県立新地高等学校)

コミュニケーションの技能の中でも、特に「伝える」ことに焦点を当てたLHRの授業とSHRの指導を通して、生徒のよりよい人間関係を形成する力を高めることを目指しました。



情報教育

研究主題 (H29・H30)

プログラミング的思考を育成する授業の在り方—プログラミング体験を取り入れた数学的活動を通して—

加藤 政記 (平田村立蓬田小学校)

試行錯誤を伴った活動や手順をアルゴリズム化していく活動を数学的活動に位置付け、数学的な資質・能力とともにプログラミング的思考を育成する授業について、その効果を検証しました。



紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては、「平成29年度研究紀要第47集」「平成29年度長期研究員個人研究報告書」を御覧ください。また、これらは当教育センターのWebサイトから御覧いただくことができます。

<http://www.cms-center.gr.fks.ed.jp>



平成29年度 福島県教育研究発表会



「明日の福島の教育をつくる」をスローガンに、福島県教育研究発表会が11月30日(木)に当センターにおいて開催されました。

県内の小・中・高等学校における優れた研究実践や当センターチーム研究及び長期研究員による研究、合わせて21の研究発表が行われました。また、「授業、そして学校を変える カリキュラム・マネジメント」の演題で、横浜国立大学名誉教授 高木 展郎 氏の御講演が行われました。

おかげさまで、御来賓を含め約250名の皆さまに御参加いただき、無事終了することができました。御後援をいただきました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会、御臨席を賜りました来賓の皆さま、そして、御参加いただきました県内外の教職員及び学生の皆さまに、厚くお礼申し上げます。来年度も実り多き研究発表会となるように準備を進めております。ぜひ多くの皆様の御参加をお待ちしております。

- 各発表の概要・要旨を当センターWebサイトに掲載いたしました。是非ご覧ください。
- 来年度の予定は次のとおりです。

日 時：平成30年11月29日（木） 9時50分～

内 容：各種研究発表及び講演

来年度の研修講座から

小学校基本研修で外国語活動の研修が拡充されます

次期学習指導要領では、小学校3年生から「聞く・話す」中心の外国語活動を導入し、小学校5年生から「読む・書く」を加えた外国語を、教科として学習することとしました。その移行期間として、来年度（平成30年度）から「総合的な学習の時間」の一部を外国語活動・外国語科に振り替えることが可能となり、3、4年生の外国語活動が始まるともに、5、6年生は外国語活動に加えて、外国語科の内容を扱うこととなります。

そのため当センターでも研修内容の一部を見直し、右表のように、来年から小学校の各基本研修に講義「外国語活動・外国語の授業」を位置付け、先生方の英語指導力の一層の向上を目指します。

なお下記のように、専門研修講座でも小学校外国語活動講座を開講しています。基本研修の対象となっていない先生方については、当センター専門研修の受講をお勧めいたします。

外国語の研修を行う小学校基本研修

初任者研修 — 宿泊研修B

経験者研修Ⅰ — 教科指導研修

経験者研修Ⅱ — 教科指導研修

(会場はすべて福島県教育センター)

専門研修講座にぜひお越し下さい

当センターでは、学校現場における先生方の授業力向上や様々な教育課題への対応に役立つ専門研修を行っています。専門研修は希望制で、当センターまでの旅費は各学校の旅費とは別途に確保されています。

来年度は、教科教育系(32講座)・教育相談系(3講座)・情報教育系(8講座)・教科外教育系(4講座)の全47講座を予定しており、新たに「**スピーキング力を高める英語指導講座**」「**世界の諸民族音楽の授業づくり講座**」の2講座を開講いたします。また、小学校外国語活動講座など次期学習指導要領を踏まえた講座や、情報モラル教育指導者実践講座など喫緊の課題について研修する講座もございます。是非お越しください。

福島県教育センターからのお知らせ

来年度(平成30年度)に当センターの理科棟、宿泊棟の耐震改修工事を行う予定です。そのため一部の研修については、昨年までと大きく異なる日程で実施いたします。講座要項等をよく御確認ください。

また当センター西側の河川改修工事の進行に伴い、当センターの駐車スペースとして使わせていただいていた河川敷地が使用できなくなる予定です。これまでと比べ駐車可能台数が少なくなりますので、乗り合わせや公共交通機関の利用に御協力ください。